



CQM(超短期経済予測モデル)

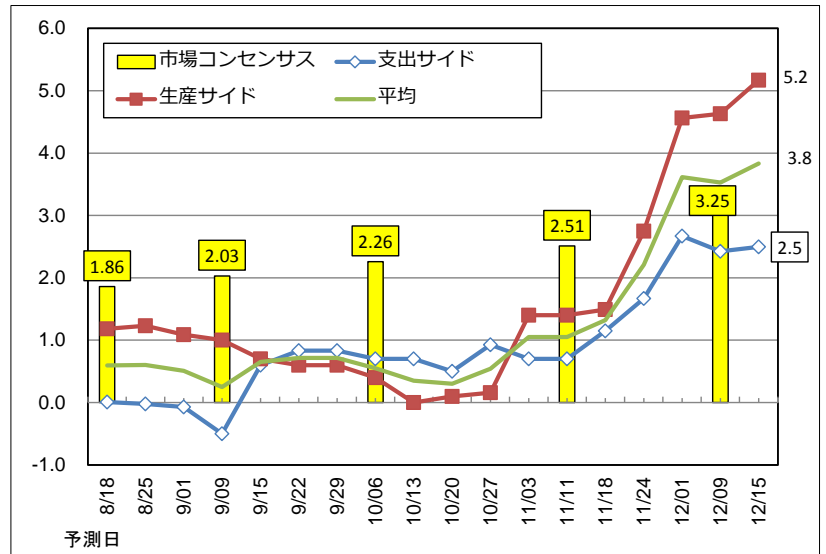
稲田義久 (APIR 数量経済分析センター長)
内容に関するお問い合わせは下記まで
e-mail:inada-y@apir.or.jp

日本経済(週次)予測(2014年12月15日)

ポイント

- ▶今回予測で更新されたデータは、10-12 月期の民間最終消費支出、民間企業設備、民間在庫品増加、政府最終消費支出、純輸出及び主要デフレータの予測値に影響を与える。
- ▶10 月の消費総合指数は事前予測を上回ったため、実質民間最終消費支出の予測値は先週から上方修正された。
- ▶10 月の資本財出荷指数や民間コア機械受注は事前予測を下回った。結果、実質民間企業設備の予測値は先週から小幅下方修正。
- ▶10 月の公務等活動指数は事前予測を上回った。結果、実質政府最終消費支出の予測値は先週から上方修正。
- ▶11 月の交易条件は改善したため、実質純輸出の予測値は先週から下方修正。
- ▶結果、今週の超短期モデルは、10-12 月期の実質 GDP 成長率を前期比年率+2.5%と予測。先週の予測から上方修正。

CQM 予測の動態：実質 GDP 成長率 2014年10-12月期(%, 前期比年率換算)



<大幅円安と原油安により交易条件は改善>

今回の予測で更新されたデータは、11月の消費動向調査、国内企業物価指数、輸出入物価指数、10月の鉱工業指数(確報値)、第3次産業活動指数、消費総合指数、情報サービス業売上高及び機械受注統計である。これらは、民間最終消費支出、民間企業設備、民間企業在庫品増加、政府最終消費支出、純輸出及び主要デフレータの予測値に影響を与える。

10月の消費総合指数は前月比-0.2%低下した。実績値は事前予測を上回ったため、10-12月期の実質民間最終消費支出の予測値は先週から上方修正された。

10月の資本財出荷指数(確報値)は前月比+5.0%上昇した。実績は速報値を幾分下回った。また、10月の民間コア機械受注は前月比-6.4%減少し、事前予測を下回った。結果、10-12月期の実質民間企業設備の予測値は先週から小幅下方修正された。10月の最終需要財在庫指数(確報値)が更新された。結果、10-12月期の実質民間在庫品増加の予測値は先週から上方修正。10月の公務等活動指数は前月比+0.7%上昇した。実績は事前予測を上回ったため、10-12月期の実質政府最終消費支出の予測値は先週から上方修正された。

11月の円・ドル相場は大幅円安に振れた。加えて原油価格は大幅下落した結果、交易条件指数は23カ月ぶりに前年比改善した。このため、10-12月期の実質純輸出の予測値は先週から下方修正された。

今週(12/15)の超短期モデル(支出サイド)は、10-12月期の実質GDP成長率を前期比+0.6%、同年率+2.5%と予測。先週の予測(+2.4%)から幾分上方修正された。10-12月期は内需(同+0.3%)と純輸出(前期比+0.3%)がともに拡大する。

- ・本レポートは執筆者が情報提供を目的として作成したものであり、当研究所の見解を示すものではありません。
- ・当研究所は、本レポートの正確性、完全性を保証するものではありません。また、本レポートの無断転載を禁じます。
- ・お問い合わせ先：一般財団法人アジア太平洋研究所 contact@apir.or.jp 06-6485-7690